

会員の皆様のリクエストにおこたえて
ユニークなゼミを紹介してもらうコーナーです。

このゼミに注目!^{第12回}

田中ゼミ



写真3：石垣島の人たちと一緒に



文学部地理学科

教授 田中 靖

専門分野：地理情報学／自然地理学

「石垣島での現地調査実習」

ゼミのやり方は分野や教員の考え方などに
より様々だと思いますが、文学部では卒業論
文が必修であるため、おのずとゼミがカリ
キュラムの要となります。地理学科では3・
4年次で「：演習」「：調査法」という授業
名のいわゆる「ゼミ」が必修科目となっており、
必ずどこかに所属して勉学に励むことにな
ります。4年ゼミの目的は卒業論文の完成
であるため、その振り分けは主に教員の専門
分野で行っていますが、3年ゼミの目的は現
地調査実習であるため、振り分けは調査地
で行っています。なんとも地理学科らしいやり
方と言えるのではないのでしょうか。私は、こ
の3年ゼミをここ数年、沖縄県の石垣島で
行ってきました。そこでここでは、この「石
垣島3年ゼミ」の紹介をしたいと思います。

地理の学習の第一歩は、地域の違いを感じる
ことです。そのためには、東京からできるだけ
離れた方が分かりやすい。実際、近年のゼミ所
属学生の出身地を調べてみると、多くは東京近
辺の自宅からの通学生であり、関東以北に偏っ
ています。だったら、見たことのない世界に連
れて行ってやろう。始まりはそんな単純な理由
でした。

駒大地理学科の良いところは、本当の「地理
好き」がたくさん集まっていることです。学生
たちにとっては本格的な現地調査は初めての経
験であり、その中には体力と根性を必要とする

泥臭いものも多いのですが、そういうことも喜
んでやる学生が多いのです。昨年度も、参加者
全員で海に潜ってサンゴ分布地図の検証を行っ
たり（写真1）、衛星画像解析による土地利用
分類の検証を行ったり、土壌の酸性度と栽培作
物の関係を調べたり、地元の方々からの依頼で
文化財の分布マップを作ったり…と短い時間
でしたが大変充実した調査経験を積むことが
できました。その成果は100ページを超える報告
書としてまとめ（写真2）、印刷・製本してお
世話になった方々などに配ることができました。

現地調査最終日、調査から帰ってくる学生の
目つき顔つきは出発前とは明らかに違っていま
す。現地調査には人を大きく成長させる力が
あるのだと実感します。現地での最後の夜は、
地元の人たちも交えての宴会（写真3）。少し
自信を付けて一回り大きくなった学生たちと共
にお酒を飲む時間は、この仕事をしていて良
かったと思える幸せな一時です。



写真1：サンゴ分布調査の様子



写真2：印刷・製本された報告書